

佐賀市男女共同参画情報誌

ぱ す ぽ と

Passport

2026 春 Vol.55

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現を目指しましょう。

第5回女性活躍推進セミナー



父子料理教室



新任管理・監督者研修



★ CONTENTS ★

- | | | | |
|--------------------|---------|------------------------|-------|
| ●第5回女性活躍推進セミナー |P1 | ●プレママ・パパサロン | ...P4 |
| ●日本女性会議2025 樫原 |P2 | ●市職員の新任管理・監督者研修 | ...P5 |
| ●パパとこどもと一緒に料理を楽しもう | ...P3 | ●佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介 | ...P6 |
| | | ●「ジェンダー平等あたりまえ」の社会に向けて | ...P7 |

令和7年度 佐賀市女性活躍推進セミナー

■スペシャルトーク

今日も、自分に手をやいてます。立ち止まっても大丈夫ー自分を信じて進むカー



・開催日：令和8年1月17日（土）
・会場：ホテルマリターレ創世

トークゲスト：小巻 亜矢さん
(株式会社サンリオエンターテインメント代表取締役社長)

「今日も自分に手をやいてます。そんな自分を認めることからすべては始まります。」からスタート。自分を知るための方法として3つの「セルフダイアログ（自己対話）」の方法を勧められました。

- 1 今の自分になるまでのストーリーを見つめる
- 2 自分の中の多様性に目を向ける
- 3 自分の人生のハンドルは自分のもの

小巻さんが伝えたのは、「自分を知ること」から始める大切さでした。今の自分は、これまでに会った人や言葉、出来事の積み重ねでできています。影響を受けた経験や変わった価値観、そして変わらず大切にしてきた想いを振り返ることは、自分の現在地を紐解く作業です。

また、私たちの中には、いくつもの役割や性格、信条が共存しています。母としての自分、仕事を担う自分、頑張り屋の自分、弱気な自分。立場が違ってもやったり、立場で自信をなくしたり、自分の中で自分の同士が戦っていることがあります。それは自分自身に多様性があるからです。

そして小巻さんは、「人生のハンドルは自分のもの」と話されました。遠い将来を完璧に描くのではなく、今、この期間にどうありたいかを決める。自信のある自分の声を少し大きくしたり、憧れの人の一部を取り入れてみたり、変化の時代だからこそ、しなやかに挑戦を重ねる先に、自分だけの道ができていく。自己対話を続けながら、すっきりと前へ進んでいくことが大切だというメッセージをいただきました。

「笑顔のコーチング」 ファシリテーター：小巻 亜矢さん

＊コーチング … 人間の可能性を引き出すコミュニケーションで、その人の中の答えを引き出す

＊笑顔のコーチング … 笑顔でコーチングすること、相手の笑顔を引き出すコーチング

参加者がグループに分かれて仕事や子育て等でそれぞれが抱える「もやもや」を互いに共有し、そこから自身のもやもやの裏にある本音や願望を見つめ直しました。

⇒参加者の皆さんは初対面でしたが、すぐに打ち解けて笑顔で語られ、とても盛り上がりました。



★参加者の声

佐賀市からのチラシを見て応募。初めて参加したが、人を笑顔にする講師の講話の内容が良かった。人とつながる力がつき自分の強みにすることができた。

<感想>

講師の講話を聞いてみたい、コーチングを知りたいなど、明確な目的をもち、男性も含めて76名の出席者があり、参加者の熱気を感じました。講師の小巻さんからご自身の経験を踏まえて「自分の人生のハンドルは自分のもの」、「イメージの力で自分の人生を変えることができる」、「自分の工夫次第でやりくりはできる」など、参加者に背中を押す言葉を投げかけてもらいました。

(編集委員 梶島陽一郎、草野圭織)

日本女性会議 2025 橿原

日本国はじまりの地から未来へ～多様性を認め合う社会の実現を～

- ・開催日：令和7年10月3日(金)～5日(日)
- ・会場：奈良県橿原文化会館 等

日本のはじまりの地とされる橿原に、全国各地から多様な立場の方が集い、歴史・文化・働き方・ジェンダー平等など、幅広いテーマで議論と学びを深めた三日間だった。

分科会 「日本国の始まり その時代を生きた女性たち」

約 1300 年前の日本を生きた女性の実像を、万葉集を通してひも解く内容だった。

当時の女性たちは社会の中で限られた立場にありながらも、自らの感情や想いを和歌に託して生きていた。そこには男女格差はなく女性を尊重される生き方が表現されている。

その姿から、時代を超えても変わらない人間の普遍的な強さと、自己表現の力を感じた。制約の中にも自由を見出し、自らの声を社会に届けようとする姿勢に深く共感した。

現代を生きる女性たちにも通じる、芯のある生き方だった。

分科会 「はたらく女性 輝く会議」

女性就業率 最下位の奈良から考える

～日本国はじまりの地・橿原からはたらく女性が輝く未来～

奈良県の女性就業率の低さの背景には、保育・介護環境や雇用機会の少なさ、伝統的な家庭観など、複数の社会的要因があると指摘されていた。

一方で、地域資源を活かした女性の起業や、フリーランスとしての挑戦も紹介されており、変化の兆しと可能性を感じた。

佐賀市も女性の社会進出が進んでいるが、非正規雇用や賃金格差といった課題を抱えている。奈良と佐賀を比較することで、地域の歴史や文化的背景が女性の働き方に与える影響を改めて認識した。それぞれの土地の特性を活かした取り組みこそが、女性の働き方を豊かにしていく鍵だと感じた。



<感想>

今回の日本女性会議では、古代から現代に至るまでの女性の生き方の軌跡を学んだ。働く女性としての課題と希望、そして個人としての生き方を深く見つめ直す時間になった。

歴史文学から学ぶ女性の強さ、有森裕子氏の生きる勇氣、アン・ミカ氏の優しさと品格。それぞれの言葉や出会いが、これからの自分の生き方を照らす光となった。

橿原の地で得た学びを佐賀での活動に活かし、女性が自分らしく輝ける社会づくりを進めていきたいと思った。

(編集委員 江頭美代子)

パパとこどもで一緒に楽しむ料理教室

～料理から始める“家族の時間”～

- ・開催日：令和8年1月10日（土）
- ・会場：アバンセ3階 調理実習室

夫婦とこどもがいる世帯では、年々共働きの家庭が増加しています。そんな中、共働き家庭において家事・育児関連時間が長いのは、**依然として女性**であるという現状があります。今回は、従来の価値観や家庭での家事育児の分担を見つめなおすきっかけとして、パパとこどものための料理教室を開催しました。講師として、NPO 法人ファザーリング・ジャパン九州より、料理研究家の早田宝得（そうだ ともり）さんをお招きし、「肉汁が溢れないハンバーグ」を作りました。



包丁を使う場面は
パパと協力します。



普段から料理をするパパも、
あまりしないパパも協力して頑張ります。



肉の油分が溶けないよう
手で混ぜないのがポイント！

家事育児は女性のもの？～できることからコツコツと～

講師の早田さんのご家庭では、2人のこどもがいる中で、「料理や買い出しは自分、洗い物や洗濯は妻」と、それぞれできることを分担しているとお話されていました。また、後半のご講演では、自分の中の「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」に目を向けることの重要性について語られました。

アンコンシャス・バイアスとは、過去の経験などによる無意識な思い込みによって物事を判断したり、行動したりする心の偏りを指します。「育児は母親中心であるべき」「料理は男性にはできない」など、まずはこうした無意識の偏見に**気づくことが大切です**。そして、いきなり全てを完璧にこなそうとするのではなく、パートナー・家族と話し合いながら、**できることからコツコツと実践していくことが重要**だと強調されていました。



<感想> こどもが笑顔なのはもちろん、お父さん・お母さんも一緒になって笑っている。

そんな暖かい家庭の一部をおすそ分けしていただいているような、素敵な料理教室でした。

（編集委員 濱田仁晟、矢ヶ部ひとみ）

プレママ・パパサロン

- ・開催日：令和7年12月20日（土）
- ・会場：佐賀市子育て支援センター「ゆめ・ぼけっと」

間近に出産を控えた初産夫婦を対象に佐賀県助産師会の講師や支援センターのスタッフから学ぶ体験型講座が行われました。初めての出産・子育てにわくわく・ドキドキの参加者が体験を通して我が子への思い、そして、ママ・パパへの思いも大きく膨らみました。

★今・これからママ・パパにできることは （助産師による講話）

出産により生活スケジュールは大きく変化し、ママが自由になる時間はなくなってしまう。出産後、ママの体調も万全ではなくなり、ホルモンバランスの変化で感情のコントロールも難しくなり「産後うつ病」になることも…。赤ちゃんとの暮らしをハッピーにするためのキーワードは、「助けて」という言葉、そして互いの「いつもありがとう」の気持ち。「今してほしいこと」を二人で話し合い、協力して子育てすることの大切さが助産師からの温かい言葉で語られました。



★沐浴体験・妊婦体験や抱っこ体験で学んだことは

赤ちゃんをお風呂に入れる沐浴の仕方を助産師から学び、実際に人形をベビーバスで沐浴させました。3kgほどの人形を片手でしっかり抱えながら体を洗ったり、かけ湯をしたりする姿は真剣そのもの。

妊婦体験では、パパが8～9か月のママに変身し、お腹に7kg程のおもりを巻いて座ったり物を拾ったりする体験をしました。腰への負担や歩きにくさ、起き上がりの大変さも実感できました。

赤ちゃんの抱き方を学び、二人で交代しながら抱っこもしました。抱っこ人形を優しく見つめながら我が子への思いが膨らみました。



参加者の感想

ママが日々
どうしているのか
分かっていました。

今後に生かして
いきたい。

妻の負担が
少しでも軽く
できるように
気にかけて
いきたく
思います。

妊婦体験を
通して
「ママありがとう」
と改めて
感じました。

生まれるまで、
生まれてからも
一緒に協力して
いきたいです。

<感想> 初めての出産を前に真剣に学び、我が子を思い浮かべながら様々な体験をする参加者の優しい笑顔が印象的でした。出産を迎えるママ・パパにとって、互いを思いやり感謝の気持ちを大切に子育てしていくことがいかに大切なのか、改めて実感することができました。赤ちゃんを真ん中に、ママ・パパが協力し、助け合いながら幸せな生活を創り上げていく…。男女共同参画の一つの姿を見ることもできました。

参加されたプレママ・パパが、我が子に向き合いながら優しいママ・パパに成長されていくことで
（編集委員 中村美枝子、柊島陽一郎）

令和7年度男女共同参画推進のための新任管理・監督者研修会



- ・開催日：令和8年1月21日（水）
- ・会場：佐賀市役所本庁舎

新たに管理職・監督職になった市職員を対象に、男女共同参画推進のための研修会が開催されました。職員が男女共同参画の現状を学ぶとともに、職場環境の課題点や解決策をグループで話し合いました。

I 佐賀市職員における男女共同参画の現状

講師：佐賀市男女共同参画課長

■全職員のうち、女性管理・監督者の登用率は25.5%を達成（R7年4月時点）

女性登用がゴールではなく、性別に関係なく誰もが自分らしく働けるか？という視点が重要。

■男性の育児休業取得率は90.6%（R6年度）

取得期間が短い人、キャリアに影響が出ること懸念して取らない人もいた。若手職員でも育休取得しやすいように、管理・監督者から積極的に声掛けをしてほしい。

■困ったときにすぐ相談できる職場環境づくりを！

生理や更年期障害など女性特有の健康問題を抱える人が、いつでも相談できるような環境づくりが重要。

II 「働きやすい職場づくり」から考える「佐賀市の未来」

講師：萩原 なつ子さん（独）国立女性教育会館理事長、立教大学名誉教授

<キーワードは「ジェンダー」と「Well-being（ウェルビーイング）」>

○男性を「標準」とする社会では、女性の生き方や行動が制限され、様々な差別や格差を生み出す。背景には‘常識ではこうだ’、‘こうあるべきだ’といった無意識の偏見がある。）

○上記の背景から、地方の若年女性の都市部への流出が問題となっている。今後、地方の生存戦略としてジェンダー主流化（政策の立案や実施において、ジェンダー平等の視点で取り組むこと）に取り組む必要がある。

○ジェンダー主流化の推進体として、民間に先駆けて女性登用を推進していく役割が地方自治体行政に求められている。

○行政の役割が、地域社会のウェルビーイング（肉体的・精神的・社会的に満たされた状態）に影響する。まずは自分の職場のウェルビーイングはどうか？と見直してほしい。

III ワークショップ：「これはジェンダーによる偏り・役割の固定化かも？」と感じる職場のルールや雰囲気はありますか？

<グループで出た意見>

①若手職員が仕事への積極性が乏しいと感じる。世代間ギャップを感じる。

<解決策> 意見が言いやすい雰囲気を上司が作り、仕事を任せ、協力し、支え、褒める。

②女性用トイレの数が少なく、行列になるので増やしてほしい。

③災害対応時の避難所設営は夜間が多いので、男性職員が対応することが多い。

<解決策> 事前にルールづくりをして、男女に偏りがないように対応する。

<感想> 今回は市職員向けの内部研修でしたが、「誰もが自分らしく働ける環境づくり」とは社会人全てに共通するテーマだと思います。上司のちょっとした声掛けや雰囲気づくりは職場環境に大きな影響を与えます。常識だと思い込んでいることが実は偏見なのではないか？

と、まずは自分の身の回りを見直すことが重要ではないでしょうか。（編集委員 草野圭織）

一 佐賀市男女共同参画推進 - 協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている事業所を紹介します。（五十音順）

大坪産業株式会社 （東与賀） 製造業



当社は金属リサイクル業・産業廃棄物業を通じ、地球環境を守る仕事に取り組んでいます。昨年は女性アルバイトが育児休業を取得。健康経営にも力を入れ、健康経営優良法人に2年連続認定、2026年は、ブライト500に挑戦し、社員一人ひとりが心身ともに健康でいきいきと活躍できる職場づくりを目指しています。

学校法人九州国際学園 （神野東） 学校教育業

学校法人九州国際学園は佐賀駅サンライズ口から西に徒歩3分、九州国際情報ビジネス専門学校と九州国際高等学園、2



つの学校で佐賀のこれからの担う職業人、社会人を育成しております。教職員は男性14名、女性8名で構成しており、学生生徒と共に、笑いの絶えない明るく楽しい職場です。

株式会社グローバルワークス （駅南本町） 情報サービス業

当社は、育休・介護休業制度を整備し、男女ともに育休・産休の取得率 100% を維持しています。柔軟な勤務スタイルや円滑な職場復帰支援に加え、休みやすい環境づくりにも注力し、年次有給休暇の取得率は昨年度 89% を達成。ライフステージに応じて無理なく働き続けられる職場を実現しています。



株式会社グローバルワークス

株式会社ソアー （鍋島） その他の卸売業



当社は、「お客様の喜びと社員の喜びを継続的に両立させ、世の中の役に立つ存在であり続けたい」をモットーに、お客様の事業繁栄の貢献に日々努め、佐賀県では唯一、富士フイルムビジネスイノベーション（株）の特約店として地域に密着したサービスを行っています。育児・介護休業後の職場復帰支援や、男女を問わず働きやすい環境づくり、各種制度の整備に積極的に取り組んでいます。

佐賀市男女共同参画推進協賛事業所 募集中！



事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。

協賛事業所への登録をお待ちしています！

担当：佐賀市 男女共同参画課
電話：0952-40-7014
FAX：0952-29-2095

申込用紙は佐賀市ホームページからダウンロードできます。

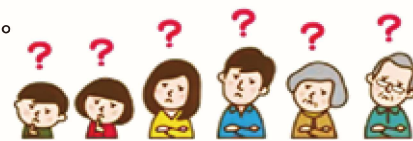
協賛事業所 佐賀市 **検索**



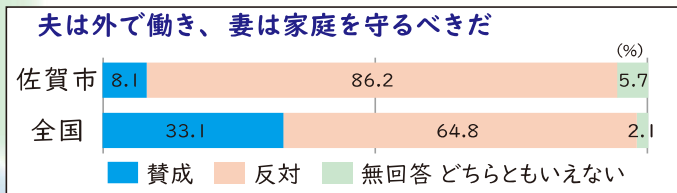
「ジェンダー平等あたりまえ」 の社会にむけて



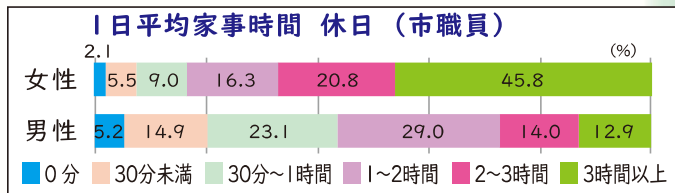
日本は、SDGs「目標5 ジェンダー平等」において深刻な課題が残ると指摘されました。わたしたちの佐賀市はどうでしょうか。
各種意識調査結果から考えてみましょう。



○意識と実際の暮らしでは、どうでしょう？

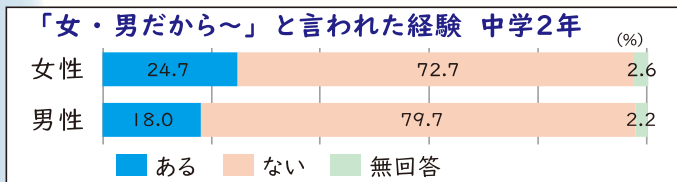


資料：佐賀市「令和6年度 男女共同参画に関する市民意識調査」
全国（内閣府）「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

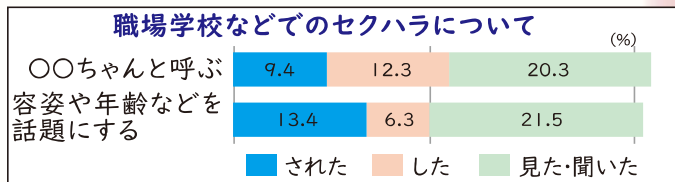


資料：佐賀市「令和5年度 男女共同参画に関する佐賀市職員意識調査」

○無意識に発していませんか……（アンコンシャスバイアス）

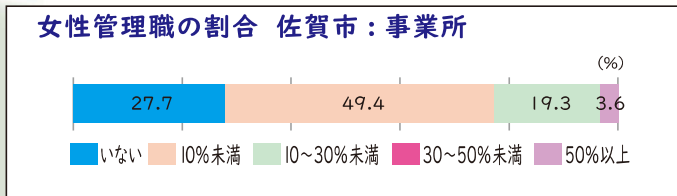


資料：佐賀市「令和6年度 男女共同参画に関する中学2年生意識調査」

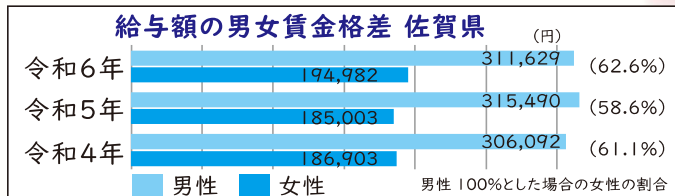


資料：佐賀市「令和6年度 男女共同参画に関する市民意識調査」

○格差は小さくなっていますが……



資料：佐賀市「令和5年度 女性の活躍推進及びダイバーシティ推進に関する事業所意識調査」



資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査地方調査」

家事・育児川柳 楽しみながら家事をする姿は、こどもにもよい影響をあたえると…

週末の
パパの愛車は
ベビーカー



AIも
予測不能な
子の動き



『おれやるよ』
愛してるより
ささります



編集後記

昨年冬『じゃあ、あんたが作ってみろよ』というドラマがありました。原作は谷口菜津子さんの同名漫画です。「料理は女がするもの」という固定概念が強い勝男と恋人ファーストで自分を見失った鮎美が別れを経て、料理をきっかけに価値観を問い直してくドラマです。日常にあるジェンダー観がリアルに描かれており、あたりまえを問い直す主人公に共感しながら、家事は性別役割ではなく生活スキルであること、ジェンダー平等は学び直しで進むこと、男女共同参画は制度ではなく日常のあたりまえから始まるということを感じました。今号の特集が、生活や自分を振り返るきっかけとなればと思います。

（編集委員 手塚美代子）

編集委員

（五十音順）

江頭美代子・柁島陽一郎・草野圭織
手塚美代子・中村美枝子・濱田仁晟
矢ヶ部ひとみ

※編集委員は市民の方々にご協力いただいています。

発行・お問い合わせ

男女共同参画課

TEL 0952-40-7014

Mail danjo@city.saga.lg.jp

検索→『佐賀市男女共同参画情報誌「ばすぽーと」』

過去の
「ばすぽーと」が
webで閲覧
できます！